

授業科目	発達障害治療学Ⅰ				
担当者	小林哲理（実務経験者）				
実務経験者の概要	発達障害児・者を対象とした児童療育機関等に勤務し、発達障害児・者を対象とした作業療法の経験を有する				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

子どもの生活における遊びや作業課題全般への関わりをもつ視点で、発達障害領域の作業療法を学習する。

■ 到達目標

感覚・知覚・認知・行動の発達と障害との相互関係が説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、イントロダクション（発達障害領域の作業療法）
- 第2回 子どもの発達と作業療法Ⅰ 姿勢・運動発達とその背景①（粗大運動・微細運動）
- 第3回 子どもの発達と作業療法Ⅰ 姿勢・運動発達とその背景②（口腔運動発達）
- 第4回 子どもの発達と作業療法Ⅰ 姿勢・運動発達とその背景③（正常筋緊張、原始反射の統合と立ち直り平衡反応の出現）
- 第5回 子どもの発達と作業療法Ⅱ 感覚統合機能の発達①
- 第6回 子どもの発達と作業療法Ⅱ 感覚統合機能の発達②
- 第7回 子どもの発達と作業療法Ⅲ 認知・思考機能の発達
- 第8回 子どもの発達と作業療法Ⅳ コミュニケーション機能の発達
- 第9回 子どもの発達と作業療法Ⅴ 子どもの心理・社会的発達と遊び①
- 第10回 子どもの発達と作業療法Ⅴ 子どもの心理・社会的発達と遊び②
- 第11回 子どもの発達と作業療法Ⅵ 子どもの心理・社会的発達とセルフケア
- 第12回 発達障害領域の作業療法評価Ⅰ（評価の焦点、流れ、情報収集および面接・観察の視点）
- 第13回 発達障害領域の作業療法評価Ⅱ（発達像を把握するための検査①）
- 第14回 発達障害領域の作業療法評価Ⅱ（発達像を把握するための検査②）
- 第15回 発達障害領域の作業療法評価Ⅲ（評価結果と障害構造の分析）

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】（70%）、レポート・小テスト等提出課題（30%）
講義内テストを含む全ての試験の際に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：授業前に教科書の該当箇所を読み、授業における習得目標を明確にする。復習：授業で行った教科書やプリントに目を通す。該当箇所の国家試験問題を解く。授業で指定した課題等に取り組む。

■ 教科書

書 名：作業療法学ゴールドマスターテキスト7 発達障害作業療法学（第2版）
著者名：監修：長崎重信 編集：神作一実
出版社：株式会社 メジカルビュー社

■ 参考図書

書名：発達障害の作業療法 基礎編（第2版）

著者名：編集：鎌倉矩子、山根寛、二木淑子 著者：岩崎清隆、岸本光夫

出版社：三輪書店

書名：発達障害の作業療法 実践編（第2版）

著者名：編集：鎌倉矩子、山根寛、二木淑子 著者：岩崎清隆、岸本光夫

出版社：三輪書店

■ 留意事項

発達分野への就職を考える方は参考図書を購入し授業の該当箇所を読むことをお勧めします。

次期に行う発達障害治療学Ⅱは、発達障害治療学Ⅰで学んだ知識や技術が前提となります。

■ 講義受講にあたって